



昔の災害の伝え方

問：過去の災害を忘れないために、
どのように、今の人々に伝えているのか？

地域の歴史を物語る

地名は語る

取材を振り返って
この地域には昔から多くの神社が祀られてきた。その中には、自然の恵みや恵みをもたらす神様を祀った神社や、地域を守るために建てられた神社など、それぞれに歴史や文化が込められている。今回は、その中でも特に歴史が長い神社を紹介する。その歴史や文化を知ることで、地域の歴史や文化を物語る。

総集編 [2] 神社②



日本一長いとされる大宮氷川神社の参道。右上が本殿 (幸い神社提供)

大宮氷川神社は、大宮市の中心部にあり、その歴史は古く、神代巻に記述されている。この神社は、自然の恵みや恵みをもたらす神様を祀った神社で、地域を守るために建てられた。その歴史や文化を知ることで、地域の歴史や文化を物語る。

県北 県西



武蔵の国たどる歴史

地名は語る

取材を振り返って
この地域には昔から多くの神社が祀られてきた。その中には、自然の恵みや恵みをもたらす神様を祀った神社や、地域を守るために建てられた神社など、それぞれに歴史や文化が込められている。今回は、その中でも特に歴史が長い神社を紹介する。その歴史や文化を知ることで、地域の歴史や文化を物語る。

総集編 [2] 神社①



この神社は、大宮市の中心部にあり、その歴史は古く、神代巻に記述されている。この神社は、自然の恵みや恵みをもたらす神様を祀った神社で、地域を守るために建てられた。その歴史や文化を知ることで、地域の歴史や文化を物語る。

県北 県西



「田宮」「見沼」など
神社が地名の由来になっているところもあるんだね！



- 神社の名前の由来にも注目！！
- ・落雷したところに、雷の通り道の意味を込めて「雷電神社」
- ・洪水した地域を守るために建てられた「島護産泰神社」、高台にあるよ！

- ▶ 「血洗島」には二つの説
 - ▶ 利根川が氾濫するたびに土地が洗われるので「ちあらいじま」
 - ▶ 洪水などで土地が荒れるので「ちあれじま」から「ちあらいじま」
- 埼玉は水害が多く、地名の由来になっているところが多い！

【4】

埼玉新聞

地域総合

県内各地に語源の地名は語る

地名を振り返って

総集編 [4] アイヌ



地名には歴史があり、歴史の証言者だ。なぜ、地名の由来が良くないことから来ているのだろうか？

【5】

老樹、合戦、産品も

地名は語る

埼玉の歴史と伝承

27 上里町



地名には歴史があり、歴史の証言者だ。なぜ、地名の由来が良くないことから来ているのだろうか？

【二次利用条件要項（株式会社 埼玉新聞社）】

弊社の紙面を使用して教材を作成するにあたり、以下のルールを守ってお使いください。

- 使用はワークショップに参加している方に限ります。紙面データをワークショップ参加者以外に共有しないでください。
- 紙面データは「画像」としての扱いのみ許可いたします。文章の編集等は禁止いたします。
- 作成した教材を使って新しく資料を作るなど、三次利用は禁止いたします。
- 記事の一部分のみを切り抜いての使用は禁止いたします。
- 紙面データや、作成した教材を含む紙面データを使用した資料の商業利用は禁止いたします。
- 作成した教材は授業等で利用可能です。
- 作成した教材には、活用した資料に対して「（C）埼玉新聞社」のクレジットを明記してください。
- 第4回ワークショップをもとにした教材作成以外で、教材として資料の使用を希望する場合、埼玉新聞社にご連絡ください。

☆授業等で活用していただいた場合、参考事例として共有いただけますと幸いです。

☆この二次利用条件要項は作成した教材にご掲載いただきますようお願い申し上げます。

埼玉新聞社HP : <https://www.saitama-np.co.jp/>



【6】

埼玉新聞社公式キャラクター
サイのぶん太くん

<本件の連絡先>

株式会社 埼玉新聞社

クロスメディア局

企画営業部 兼 地域創生部 Build New Local準備室

宮本 未優

TEL 048-795-9932

E-MAIL m-miyamoto@saitama-np.co.jp

②「写真」で過去の災害を伝える 1

1964年,新潟地震.



【7】

②「写真」で過去の災害を伝える 1 1964年にあった新潟地震の様子



【8】新潟地震被害状況写真（酒田市立光丘文庫所蔵）
<https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11F0/WJS07U/0620415100/0620415100200020/mp201470>

【9】新潟地震（新潟大学 地域映像アーカイブ研究センター）
https://ipsearch.go.jp/item/cria-NM_P_040_006_30



- ・ どれくらいの被害があったのかな？
- ・ 写真に写っている子どもはなにを考えていたのだろう？

明治庄内地震について

山形県では過去にどんな災害がおこっていたのだろうか？

酒田大地震（庄内地震）は、明治27年10月22日午後5時35分に発生した庄内平野東縁断層帯北部が震源と推定される直下型（内陸型）の地震である。地震規模はマグニチュード7.0を記録した。飽海・東田川・西田川の庄内三郡に被害が集中し、三郡の被害総計は、死者717人、負傷者852人、焼失家屋2505棟、倒壊家屋3124棟に及んだ（『酒田市史』による）。特に最上川流域と、赤川・大山川・藤島川の合流点付近が大きな被害を受け、最も惨状を極めた酒田町では死者162人、負傷者223人を出した。夕飯の仕度時だったため、各地で火災が発生し、町の過半に当たる1747棟が全焼。（酒田市資料館資料より）

【10】関連資料「酒田貧民学校ノ大傾斜」（国立科学博物館）

https://www.kahaku.go.jp/research/db/science_engineering/namazu/05sonota/syounai/syounai.html/3-05.html



学校が壊れちゃうほど、大きな地震だったんだ。

明治庄内地震について

山形県では過去にどんな災害がおこっていたのだろうか？

文部省の震災予防調査会が酒田大地震の被災地を調査

酒田大地震は、調査会発足から2年後に起きた。地震学者で調査会委員の大森房吉や、帝国大学、その他の学者らが酒田に派遣され、被害状況を丹念に調査した。調査結果や地震被害軽減策を、調査会発行の『震災予防調査会報告』に5回にわたって発表した。

(酒田市資料館資料より)

☆昔の人はどうやって、すばやく地震に気づいていたのだろうか？

大森式地震計

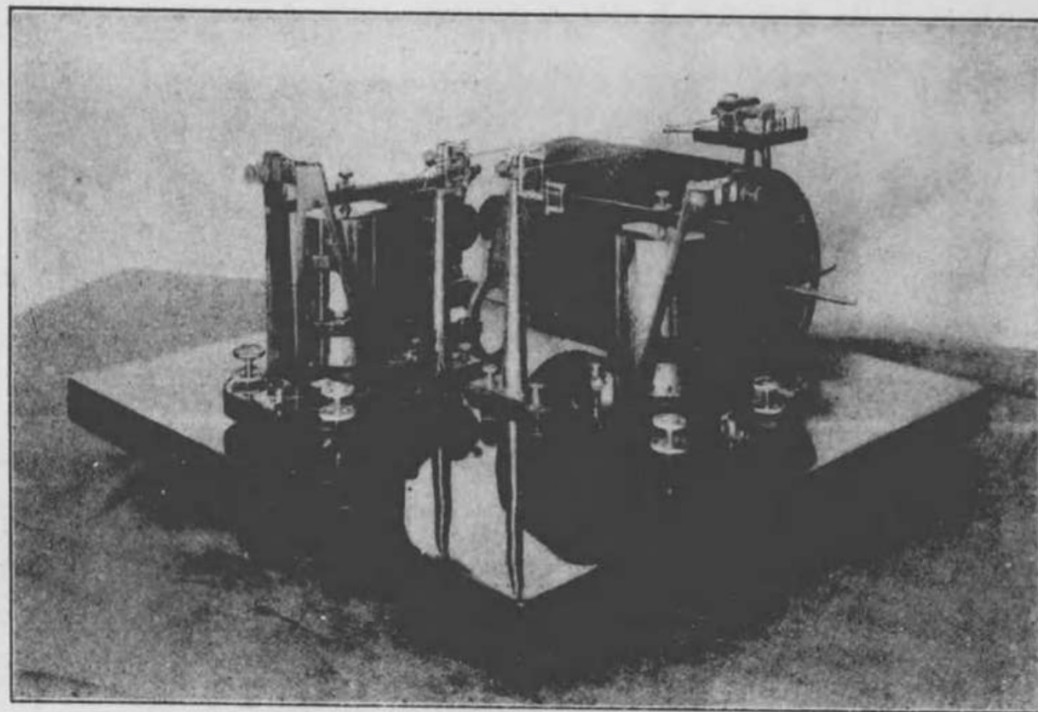
大森房吉（1868～1923）が1898年頃に完成した大型の地震計。それまで使われていた地震計が地震動を感知してから動き出すものだったのに対し、その欠点を改めて常に動いて連続記録ができる地震計として登場した。振り子の質量は約10kg、周期は10～30秒、記録の倍率は10～20倍前後と観測点によって様々である。記録は煤（すす）書式で、記録紙を巻いたドラムは重錘またはゼンマイを動力にしてゆっくりと回転する。日本の代表的地震計で、国内外で数多く使われた。

（出典：国立科学博物館データベースより）

関連資料：【12】大森式地震計（国立科学博物館）

http://db.kahaku.go.jp/webmuseum/detail?cls=col_e1_01&pkey=MOB2007.03.31.001

圖 六 十 第



計動微單簡式森大

【13】 中央気象台 編,中央気象台『地震観測法』より
（国立国会図書館）

<https://jpsearch.go.jp/item/dignl-952305>

③「絵」で過去の災害を伝える

荘内地震による酒田市内の大火の様子

市内小学校の倒壊の様子



酒田大震写真図（酒田市立光丘文庫所蔵）
<https://adeac.id/kokuyubunko/catalog/mp200730-200020>

【14】

明治27年(1894)10月22日夕方、庄内地方を中心
に起こった大地震の惨状を伝える石版画で、6枚
が絵の描かれた袋に収納されている。発行は今
町の池野伝左衛門で、地震から3か月後の明治28
年1月末である。以下の6場面が描かれており、
うち4場面は地震直後に撮影された写真と同じ構
図のため、写真をもとに描かれたものと推測さ
れる。6場面の資料名はそれぞれ「酒田尋常高等
小学校大震潰倒之図」「酒田大震浄福寺崩壊之
図」「酒田大地震出町潰家之図」「酒田本町大
激震烈火中へ民狼狽之図」「酒田大震船場町湯
屋崩潰烈火焼死之図」「酒田船場町旅人宿大震
大火遭遇之図」である。



同じ災害でも、写真で伝えたり、絵で伝えたり様々だね。

莊内地震による酒田市内の大火の様子

本町の様子



酒田本町大激震烈火中へ民狼狽之図 (酒田市立光丘文庫所蔵)
https://adeac.jp/kokyubunko/viewer/mp200730-200020/20_K-058/

【15】

船場町の様子



酒田大震船場町湯屋崩潰烈火烧死之図 (酒田市立光丘文庫所蔵)
https://adeac.jp/kokyubunko/viewer/mp200730-200020/20_K-058/

【16】

庄内地震による酒田市内の大火の様子

明治27年（1894）10月22日午後5時37分、庄内地方を中心に大地震が起こった。『酒田大震災実況図』は庄内地方を中心とした大地震時の酒田町の惨状を描いた絵巻物である。



荘内地域や震災に関する参考文献及びURL

- ・ やましん防災ナビ

<https://www.yamagata-np.jp/bosai/?id=31&no=201210221556&p=53>

※内部の写真使用には申請書等が必要

- ・ 酒田市史年表

<https://trc-adeac.trc.co.jp/html/Home/0620415100/topg/nenpyo.html>

※IN COPYRIGHT - EDUCATIONAL USE PERMITTED (著作権あり - 教育目的の利用可)

- ・ 第186回 酒田大地震と新潟地震（会期：平成26年4月8日～6月23日）

<http://www.city.sakata.lg.jp/bunka/bunkazai/bunkazaishisetsu/siryokan/kikakuten179-.files/0186.pdf>

- ・ 国土地理院 自然災害伝承碑

<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>

※データの使用については掲載市区町村一覧を参照。特に記載がなければCC BY

- ・ 総務省消防庁 全国災害伝承情報

<https://www.fdma.go.jp/publication/database/database009.html>

※CC BY

- ・ (一財) 消防防災科学センター「災害写真データベース」

http://www.saigaichousa-db-isad.jp/drddb_photo/photoSearch.do

※CC BY

- ・ 山口大学 気象災害画像データベース

<https://saigai-gazou.jp/disaster/list.cgi>

※画像の使用は個々の画像が指定するクリエイティブコモンズに拠る

④「鯨絵」で過去の災害を伝える

地震冥途ノ図 安政2(1855)年

- ・この絵はどんな場面だろうか？
- ・なぜナマズが描かれているの
だろうか？
- ・この絵は何を目的として描かれ
たのだろうか、考えてみよう！



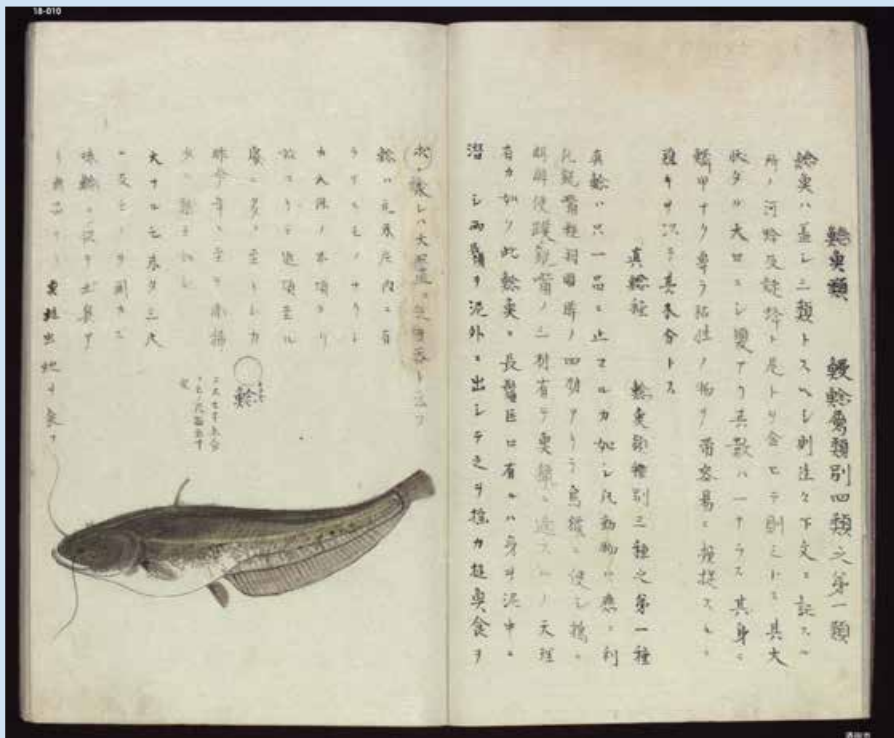
【18】

地震冥途ノ図.

収録:国立国会図書館デジタルコレクション

<https://jpsearch.go.jp/item/dignl-1302076>

鯰の認識 1 (「両羽博物図譜」より)



「両羽博物図譜」 (天保13~)

出典：松森胤保「両羽博物図譜」 (酒田市立光丘文庫)

https://miraini-sakata.jp/sakata-lib/matumori/image_data/g18/010.jpg

江戸後期、一地方※の家老が記録した動物図鑑中には、西洋の生物学的知識の流入により、地震との関連は記されていない。

※松山藩 (現山形県酒田市)

鯰の認識 2

ナマズは一方で、地震を起こすものと考えられていた。

この絵では、要石*に退治されるナマズが描かれている。

(*かなめいし。茨城県の鹿島神宮の境内などにある石。

根は深く、地震をしずめるといわれている)

【20】 (国立国会図書館蔵)



<https://jpsearch.go.jp/item/dignl-1303379>

⑤「歌」で過去の災害を伝える

地震用心の歌（安政江戸地震後に出版）

○物名（もののな）歌5首（魚、鳥、虫、草、木）が描かれ、各歌には10個の物が詠まれている。ここでは「魚の名十」を解説する。

魚の名十

さはかしきなますふりふりうこひたら（騒がしき鯰振り振り動ひたら）

サバ・カジキ・ナマズ・ブリ・ コイ・タラ **「鯰＝地震」の観念**
(スライド17-19)を利用

はやくいなせよふかきささはら（はやくいなせよ深き笹原）

ハヤ・ イナ・ フカ・ サワラ =魚の名を詠み込む面白さ

騒がしいナマズが尻尾を振って動いたら（＝地震が起こったら）、

すばやく逃げなさいよ、深い笹原に =地震が起こったら笹原に逃げろというメッセージ

1: この歌のどこが面白いのか、説明しよう。

→「地震が来たら逃げろ」というメッセージを、人々にどのように伝えるか？

=「地震＝ナマズ」という考え方を利用する。ナマズと同じ魚の名前を詠みこむ。

2: 同

じような試みは今でも行われているだろうか、探してみよう。

3:

大事なメッセージを、物の名を詠み込むことで楽しく伝える歌を作ってみよう。



⑥「狂歌」で過去の災害を伝える

絵本大変記(安政大地震後を歌う)

○「絵本大変記」は、重く苦々しい地震の記録とはかなり趣を異にする。著者は本書の序文で、地震の被害の甚大さを嘆いた後に地震で打ちひしがれた人々の心を勇気づけるため、百人一首にならった狂歌で笑っていただくといっている。

(解説 [ybia-ez-208.pdf \(sonpo.or.jp\)](#)参照)

【例】あはれともいふべき人は死に失せて 身にほどしらぬ破我（ばか）ぞ残れり 不孝之朝臣

意訳 可哀そうだと同情できるような人は亡くなってしまって、身の程をしらないバカ息子だけが生き残ったものだ

〈元歌〉あはれともいふべき人は思ほえて 身のいたづらになりぬべきかな 謙徳公

訳 私のことをあわれと言ってくれそうな人は思ってはくれず、私は恋焦がれながらむなしく死んでしまうに違いない。

※歌と共に絵があり、そこでは地震後、三味線をもって呑気に(?)唄っている色男の姿が描かれている。

画像は省略 (https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/ImageView/3900115100/3900115100200030/K453_13/?p=2)

○藤尾潔『大震災名言録 忘れるくらいなら、笑ってほしい』（明月堂書店、2010）は、阪神大震災について「部外者の人に、『一瞬でも思い返してください』とお願いするうえでの礼儀として『関西的なユーモア』は必要、そして不可欠であると考えた」という考えから、被災地のユーモアを拾いつつ、趣向を変えた「ユーモア震災記」となっている。○
『絵本大変記』はこうした試みと通じるものとなっていると言えよう。

⑦「記念碑」で過去の災害を伝える

甲午震災記念碑



明治27年（1894）10月22日午後5時35分に庄内地方で発生した大地震では、酒田町の過半数に当たる1747棟の家屋が全焼し、160人を超える死者が出た。庄内全体で死者700人を越し、焼失家屋も2500棟を越した。夕食の時刻だったため火災が発生し、かつてないほどの大惨事となった。

甲午震災記念碑は、こうした地震の惨禍を後世に語り継ぐために明治33年に建立された。縦307cm、横158cmの石碑で、碑文は全て漢文でかかっている。

【22】

災害を伝える洪水遺産



石垣で基礎を高くした上に建つ住宅 【23】

[舞中島（まいなかしま） - 【美馬市】観光サイト \(mima.lg.jp\)より](http://mima.lg.jp)

美馬市穴吹町の舞中島地区は、うだつの町並みから潜水橋を渡った対岸にあり、吉野川とその支流である明連川（みょうれんがわ）に挟まれた川の中島です。ここは、川の中島という地形特性のため頻繁な洪水被害にあいましたが、その反面、洪水によって運ばれた肥沃な土壌は藍の栽培に適しており、藍の一大生産地となりました。藍の集散地として栄えた「うだつの町並み」で知られる対岸の脇町を支えたのがこの舞中島です。

各所にのこる洪水遺産が当時の繁栄をよく物語っています。



【24】

高石垣の上に建つ光泉寺には、高地蔵や、1954（昭和29）年のジューン台風の際の冠水水位を示す洪水記録柱があります。

[美馬市立図書館美馬の記憶デジタルアーカイブ」みま歴史散歩／舞中島コース](#)より

⑦「ことわざ」と「伝統的建造物」で過去の災害を伝える

【25】

ことわざ “うだつが上がらない”

「出世ができない。身分がぱっとしない。富裕の家でなければうだつを上げられなかったことから転じたといわれる。」

(広辞苑 第六版)

美馬市脇町南町は、1988（昭和63）年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。脇城の城下町として、また藍の集散地として栄えた古い町屋が並び、「うだつの町並み」と呼ばれています。

「うだつ」とは、二階の壁面からつきだした漆塗りの袖壁のことで、火よけ壁とも呼ばれ、火事が起きた際に隣家への延焼を防ぐ防火の役目を果たしました。

のちに富の象徴となり、裕福な家しかうだつを設けることができなかったことから、ことわざ「うだつが上がらない」の語源の一つと考えられています。



[うだつの町並み 美馬市立図書館「美馬の記憶デジタルアーカイブ」より](#)

関連サイト [うだつの町並み - 【美馬市】観光サイト \(mima.lg.jp\)](http://mima.lg.jp)

①「地名」で過去の災害を伝える デ・レイケ堰堤(えんてい)

美馬市脇町の大谷川には、「デ・レイケ堰堤（えんてい）」と呼ばれる砂防ダムがあります。

この砂防ダムは、明治政府に御雇い外国人として招かれたオランダ人の土木技師のヨハネス・デ・レーケが、1884（明治17）年に吉野川を調査した際に、この大谷川をはじめとする徳島県北部の支流からの多大な土砂流出に驚き、その対策方法を指導したことによりできたものです。

ヨハネス・デ・レーケは、30年に渡り日本の河川改修、築港事業に携わり、治水事情を著しく向上させたことから「砂防の父」・「治水の恩人」などと呼ばれています。指導や建設した砂防ダムや防波堤は100年以上経過した現在でも日本各地に現存しています。



【26】

郷土ゆかりの人物「ヨハネス・デ・レーケ」について、もっと調べてみよう！

[内務省技術顧問 ヨハネス・デ・レーケ：農林水産省 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)

[デ・レイケの堰堤／デ・レイケ公園 - 【美馬市】観光サイトより](#)

みんなで考えよう

- ①なぜ昔の人は、今の人々に様々な方法で過去の災害を伝えようとしたのだろう？
- ②今の人々は、昔の人々が伝えたかったことを理解し、今の生活に活かすことができているのか？また、災害を減らす取り組みをしているのかな？
- ③これからの人たちに、過去の災害について伝えるにはどうすればよいだろう？